令和４年度　二宮町青少年問題協議会　会議録

開催日時	令和４年７月 19 日　火曜日　14 時から 15 時 20 まで
開催場所	二宮町町民センター　２Ａクラブ室
出 席 者	村田邦子会長、森英夫副会長、井上太郎委員、落合令子代理、 藤田和人委員、伊庭しげみ委員、塚越幸雄委員、脇俊二委員
欠 席 者	古澤有三委員
事 務 局	椎野教育部長、竹本生涯学習課長代理、加藤生涯学習班長、 二見主任主事
そ の 他	傍聴者なし

会議記録　（司会：竹本生涯学習課長代理）

１　開　会

２　委嘱状の交付

３　会長あいさつ

４　自己紹介

５　議題

（１）令和４年度　二宮町青少年健全育成事業の取組みについて

※事務局より資料１に基づいて説明。

○質疑等なし

（２）青少年非行の現状について

※落合代理（大磯警察署生活安全課長）より、大磯警察署管内で起きている非行の状況について情報提供。

【要点】

○顕在化した犯罪は皆さまのご協力により発生件数は少なくなっている。

○ただ、薬物特に大麻の乱用事案が発生している。大磯警察署管内でも 18,19 歳の青少年を検挙した事案があった。

○報道されているが、昨年の大麻による検挙が統計を取り始めてから過去最多となっており、その内 7 割が 20 代以下である。薬物が、一見して分かるような不良少年ではなく、ごく真面目な人も手を出してしまうようになっている。風邪薬や市販薬の乱用などが入口になっており、「この子は真面目だから大丈夫」ではなく、気になる行動があれば寄り添ってお話しを聞くなどして欲しい。

○あらゆる犯罪はSNSからつながっている。子どもは言葉も話せない年齢からスマートフォンを扱いはじめ、小中学校にあがった時点ですでに親よりも知識がある。
○ネットには過激な画像が多くあふれている。横浜では小学校低学年で性交類似行為をしてしまう事案があった。これはその行為がどういうものか理解しているわけではなく、ただネットでみた情報の真似をしていたというものだった。
○大磯警察署管内で大麻が遺留品としてみつかる事案もあった。最近大麻は中高生のおこづかいで買えるような金額であり、昔のように繁華街で怖い思いをしながら購入するのではなく、今はネットで簡単に買えてしまう。子どもに言う必要はないが、大人はネットが犯罪の入口ということを心にとめながら、子どもたちと接していかなければならない。
○少年事件で言うと、大磯警察署では福祉犯罪、つまり少年が被害にあう事件を取り扱うことが多い。先日もSNSで知り合った青少年が被害にあった事件について、大人を逮捕した事案があった。
○夏休みに入り、子どもたちも羽を伸ばす機会が多くなった。大人が気を付けて見守っていかなければいけないと思う。
○大人の方だと、フィッシングメールの被害が多くなっている。買い物サイトなどを装ったメールのリンクから偽のサイトにアクセスしてしまい、被害にあうというものなので、注意してもらいたい。
○また何か気が付いたことがあれば、警察署まで情報を寄せていただければと思う。

（藤田委員）
SNS による犯罪で、子どもたちを被害者にしないという視点の指導は多くあるが、加害者にしないという指導もしたい。例えば、加害者の検挙の状況などが分かれば教えてもらいたい。

（落合代理）
児童が被害にあっている大人が関わる事件のほとんどはサイバー犯罪である。これはほとんどが捕まっている。

（脇委員）
薬物の低年齢化については団体の中でも話題になっており、パンフレットをイベントで配布するという案も出ている。しかし、配布することによって、逆に興味を持たせてしまうのではという懸念もある。薬物の恐ろしさが理解しやすいようなパンフレットなどはあるか。

（落合代理）
イベントであれば、パンフレットも良いが映像を流すのも良いと思う。薬物はお酒やタバコから入って、エスカレートしていく事案も多い。ただダメというのではなく、こんなに恐ろしいことになるという映像を見せることで、学ぶこともできる。イベントがあれば警察も薬物防止教室などできるかもしれないので、相談していただきたい。

（井上委員）
活動上、高齢者と接することも多いのだが、インターネット犯罪の高齢者の被害状況というのはあるのか。

（落合代理）
高齢者に多いのはサポート詐欺。インターネットをやっていると、画面にいきなり「ウイルスに感染した」という表示が出る。もちろん実際に感染しているわけではなく、ただの驚かせるメッセージである。そのメッセージに「解決するにはここに連絡を」などという文言が続き、そこに電話してしまうと、言葉巧みに誘導され、コンビニでプリペイドカードやギフトカードなどを購入させられる。このカードの番号からお金がとられてしまう、という詐欺である。これはあらゆる年代で被害があるが、あまりネットに詳しくない 50 代以上の被害が多い。

（3） 情報交換
（会　長）　夏休み中の生活指導などについて情報提供をお願いしたい。

【要点】
藤田委員（二宮町立山西小学校）
〇交通安全関連では、小学校では自転車での行動範囲の目安として、低学年は自宅の周辺、中学年は学区内、高学年は町内という目安を定めている。
〇不審者に関しては、最近は二宮ではあまりないが、気を付けるように指導している。また、最近は連絡網自体がなくなったので少なくなったが、連絡先を教えてくれという電話もある。子どもだとまだ疑って対応するということができないので、教えてはいけないという指導もしている。
〇携帯電話・スマホなどについては、中学年くらいから与えている保護者もおり、非常に危惧しているところである。また、ゲームについても課金などで問題が出ている。携帯などは学校から持たせてくれという話は一切しておらず、保護者の責任の元で与えているものであるが、トラブルがあるとすべて学校に指導してくれという話しがくる。
〇また、子どもたちの外での遊び場所について、道路で子どもたちが遊んでいたので、注意したらその子の保護者から怒られた。ついては学校から指導してくれという苦情があった。すべての道路環境は一律ではなく、学校が把握することは出来ない。地域内のコミュニケーションにもかかわってくるところなので、非常に困っている。

伊庭委員（二宮町立二宮中学校）
〇夏休み中は 9 教科の学習相談日を設けている。生徒の希望制である。
〇部活動は中郡大会が終わり、中地区大会が始まる。
〇3 年生は進学に向けて、学校見学などをするように勧めている。

○生徒指導担当から伝えているのは、補導の対象時間である。特に塾に通っている子は、塾が終わってから少したつと、すぐに補導の対象時間になってしまうので、注意するよう指導している。
○今年はコロナの影響でプールの授業ができなかった。そのかわり、全生徒対象に水難事故防止教室を行った。日本ライフセービング協会から講師を招いて、ライフジャケットがいかに大切かなどを学んだ。
○3 年生を対象に薬物乱用防止教室を行った。映像で恐ろしい画面を流すなど絶対にやらないという気持ちになった生徒も多かったようだ。

塚越幸雄委員（神奈川県立二宮高等学校）
○学業不振の学生に関しては 20 講座ほど設けて、講習、補習を行っている。
○飲酒や喫煙は薬物への入口ともなるので、注意喚起を行っている。
○交通事故では高校生が亡くなる事故も起こっているので、気を付けるよう指導している。
○SNS に係るトラブルも起こっている。モラルを持って利用するように指導を行っている。
○交通安全教室についても実施する。3 年に 1 度実施しているもので、スタントマンを招いて交通事故の再現を行っている。ただ、以前事故にあった生徒にはトラウマとなっている場合もあるので、そういった生徒には配慮しながら実施する。
○今年度追加したものとして、不安を感じている生徒のために、相談ダイヤルの情報を掲載した。

井上委員（二宮町民生委員児童委員協議会）
○なかなか子どもと関わることができていないが、たまに「小学生にあいさつしても返事がかえってこない」という話しを聞くことがある。ただ、小学生には恥ずかしいとかどう返事をして良いか分からないという思いがあるようだ。ただ「返事をしない」と決めつけるのではなく、そういった思いをうまく大人も汲み取りながら、関りを持てると良いと思う。

脇委員（二宮町青少年環境浄化推進員会）
○毎年、環境浄化の活動を今後どうするかという話しが出る。半々くらいで初期の目的は達成したというのと、折角だから続けようという意見が出て、ここまで続いている。ただ、後継者がいないことが、大きな課題である。
○7 月の青少年非行・被害防止全国強化月間で先日街頭キャンペーンを実施したが、普段のパトロールでは人がいないような所を見回っていることもある。何か他にできる活動があるなら、そちらにシフトするのも良いと思う。
○パトロールについては、現在は町全体をカバーしているが、今後は地域に任せていくべきだと思う。地域の方に負担をかけないような形にするなど工夫が必要だが、顔見知りの人同士の活動の方が続いていくのではと思う。

6　閉会　１５時２０分